

令和 5 年度 (2023 年度)
学校推薦型選抜 (普通科等) 問題

小 論 文

国際商経学部 (経済学コース・経営学コース)

注意事項

1. 試験監督者の指示があるまで、この問題冊子は開かないでください。
2. この問題冊子は表紙のほかに 3 ページあります。
3. 問題は「問題 1」と「問題 2」の 2 題あります。
4. 解答用紙は 4 枚あります。
5. 各解答用紙には氏名および受験番号の記入欄があります。試験監督者の指示に従い、すべての記入欄 (氏名、受験番号いずれも 4 箇所ずつ) に記入してください。
6. 解答は解答用紙の所定の箇所に記入してください。
7. 解答用紙は横書きです。
8. 数字は 1 マスに 1 字ずつ記入してください。たとえば、数字の 10 は 2 マスを使って記入してください。
9. 解答用紙の裏面には記入しないでください。
10. 下書き用紙は 4 枚あります。
11. 解答時間は 120 分です。
12. 試験終了後、問題冊子と下書き用紙は持ち帰ってください。

問題 1. 以下の文章を読んで、下記の設問に答えなさい。

トヨタ自動車など大手企業 8 社が共同して、外国人労働者を支援する事業を始めた。取引先も含め、職場での権利侵害などの相談を受け付け、実態の把握と解決をめざすという。

多くの外国人が劣悪な条件で働かされているとの指摘は絶えず、国際問題にもなっている。改善を急がねばならない。

なかでも厳しい状況下にあるのが、勤務先を変更する自由がない技能実習生だ。

岡山市内の建設会社で働いていたベトナム国籍の男性の実習生が、同僚から暴行を受けたと訴えたケースで、先日示談が成立した。会社と、男性を同社に紹介した機関（監理団体）が謝罪し、示談金を支払った。

隣の広島県福山市で活動する労働組合が男性を支えた。暴力をふるわれた様子を記録した動画を入手して会社と交渉し、世間にもその非道を訴えた。

①安全基準違反や違法残業、賃金の未払い、パワハラなど、実習生の心身を傷つける行為が相次ぐなか、労組が救済に貢献した例は他にもある。自治体、弁護士会、そして現状に危機感をもつ使用者側とも連携して、取り組みを強化してほしい。

5 年前に設立された認可法人の外国人技能実習機構が事業者などの指導監督にあたるが、20 年だけで 5700 余の労働基準法令違反があった。また、実習生に生活上の支援をしない監理団体が、今回のように役割を果たさない例がしばしば報告され、許可取り消しも続く。

さらに同機構をめぐっても、地域の労組に加入したベトナム人女性 3 人に対し、仙台事務所の職員が脱退を促すメールを送っていたことが判明。先月、後藤茂之厚生労働相が国会で遺憾の意を表明した。

社会を支える働き手として外国人を正當に遇し、その生活や人権を守る意識があるのか。事業者、監理団体、機構それぞれが問われる事態だ。

技能を身につけて母国に帰ってもらうことを目的に掲げながら、現実には安い労働力を確保する手段になっている技能実習制度は速やかに廃止すべきだと、社説は主張してきた。

19 年には、転籍や一定の条件下で家族の帯同を認める「特定技能制度」が導入された。ところが受け入れ人数は 3 月時点で約 6 万 4 千人と、技能実習生の 4 分の 1 に満たず、かつ新制度の下で働く人からも、職場の環境や処遇に関してこれまでと同様の苦情が出ている。

技能実習と特定技能。二つの制度のあり方を検討するため、今年初め、法相の下に勉強会が設けられた。待ったなしの課題と認識し、政治の責任でこの異常事態に終止符を打つべきだ。

出典：朝日新聞 社説「技能実習制度 政治の責任で見直せ」（2022年5月30日朝刊）

朝日新聞社に無断で転載することを禁じる。

（承諾番号 23-1409）

問1 下線部の①について、本文で述べられている内容以外にどのような例が考えられるか。

問2 日本社会が技能実習生を受け入れている目的を2点、挙げなさい。

問3 「技能実習制度」の現状の問題点を挙げ、あなたの考える解決案を300字程度で述べなさい。

問題 2. 次の英文を読んで、後の問に日本語で答えなさい。

Today (April 22) is International Mother Earth Day. It is a chance to reflect on how humanity has been treating our planet. The truth is, we have been poor custodians of our fragile home. Today, the Earth is facing a triple planetary crisis – climate disruption, nature and biodiversity loss, and pollution and waste.

This triple crisis is threatening the well-being and survival of millions of people around the world. The building blocks of happy, healthy lives – clean water, fresh air, a stable and predictable climate – are in disarray, putting the Sustainable Development Goals in jeopardy.

But there is still hope. Fifty years ago, the world came together for the Stockholm Conference. It was the start of the global environmental movement. Since then, we have seen what is possible when we act as one. We have shrunk the ozone hole. We have expanded protections for wild life and ecosystems. We have ended the use of leaded fuel, preventing millions of premature deaths. And just last month, we launched a landmark global effort to prevent and end plastic pollution. We have proven that together, we can tackle monumental challenges. And the right to a healthy environment is gaining traction.

But we need to do much more, and much faster, especially to avert climate catastrophe. We must limit global temperature rise to 1.5 degrees. We are far off track. To keep 1.5 alive, governments must have cut emissions by 45 per cent by 2030, and achieve carbon neutrality by 2050. Main emitters must drastically cut emissions starting this year. This means accelerating the end of our fossil fuel addiction, and speeding the deployment of clean renewable energy.

At the same time we must invest rapidly in adaptation and resilience, particularly for the poorest and most vulnerable who have contributed least to the crisis. In June, the world will gather once again in Sweden for the Stockholm+50 meeting. Let us make sure our leaders bring the ambition and action needed to address our triple planetary emergency, because we have only one Mother Earth. We must do everything we can to protect her.

[出典] Guterres A. (2022). Secretary-General's message on International Mother Earth Day. Retrieved 2022-9-1, from <https://www.un.org/sg/en/content/sg/statement/2022-04-22/secretary-generals-message-international-mother-earth-day-scroll-down-for-french-version> [from United Nations web site] (一部修正)

[注] custodian 管理人、disruption 破壊、biodiversity 生物多様性、building blocks 構成要素、be in disarray 混乱状態にある、jeopardy 危険、ecosystem 生態系、leaded fuel 有鉛燃料、gain traction 勢いを増す、avert 防ぐ、be far off track 道を大きく外れている、deployment 活用、resilience 回復力

問 1 著者は、地球環境に関して今後さらにどのような対応が必要だと述べているか、150 字程度にまとめなさい。

問2 あなたが考える地球環境問題の最重要課題は何か、また課題への対応をどうすべきか、自身の見解を400字以内で述べなさい。